

重い電子系 Ce₂Pt₆Ga₁₅ と反強磁性体 R₂Pt₉Al₁₆ 系の X 線吸収分光

松本裕司¹, 太田玖吾¹, 渡部悠貴¹, 三井崇弘¹, 山本晏寿¹, 吉川和輝¹, 畑田圭介¹, Iesari Fabio², 岡島敏浩²

1. 富山大学, 2. あいち SR

キーワード: 価数揺動物質, 局所的反転中心の破れ, XAFS, 強相関電子系, 層状欠陥

1. 背景と研究目的

本研究の対象物質 $Ce_2Pt_6Ga_{15}$ は、結晶構造が六方晶 $Sc_{0.67}Fe_2Si_{4.9}$ 型構造して報告され、Ce と Al のサイトに欠損がある構造になっている $^{1)}$ 。しかし、X 線回折で散漫散乱が観測され、実際は原子サイトに欠損があるのではなくて層状欠陥の可能性が高いことがわかっている。この場合、斜方晶を取り希土類がハニカム構造を組んでいるモデルが提唱されている。本実験では、これらの物質の結晶構造の違いを検討するために、得られた XAFS スペクトルから、実空間において各注目元素の原子間距離を求める。また、斜方晶 $Ce_2Pt_9Al_{16}$ は Ce サイトの局所的空間反転中心が破れており $^{2)}$ 、それに起因する電流磁気

また、斜方晶 $Ce_2Pt_9Al_{16}$ は Ce サイトの局所的空間反転中心が破れており 2 、それに起因する電流磁気効果などの物性の発現が期待される。XAFS スペクトルからその結晶構造を検証する。

2. 実験内容

測定試料には $Ce_2Pt_6Ga_{15}$ 、 $Ce_2Pt_9Al_{16}$ を用いた。これらの試料を窒化硼素 (BN) 粉末で希釈し、 $10\ mm\phi \times 1\ mm$ の板状のペレットを作製した。XAFS スペクトルの測定は、 $Ce\ L$ 端($L_3:5,723\ eV$ 、 $L_2:6,164\ eV$ 、 $L_1:6,549\ eV$)、 $Pt\ L$ 端($L_3:11,563\ eV$) $Ga\ K$ 端($10,367\ eV$)に対して、あいち $SR\ O$ BL11SZ で、透過法を用いて行った。すべての測定は室温、大気圧下で行った。

3. 結果および考察

Fig.1 に、上段から Ce₂Pt₆Ga₁₅, Ce₂Pt₉Al₁₆, および CeF₃と CeO₂ から得られた Ce L3端の規格化した XAFS スペクトルを示す。い ずれのスペクトルにおいても吸収端から高エネルギー側にはっき りした振動構造が観察される。また、Ce₂Pt₆Ga₁₅, Ce₂Pt₉Al₁₆ の吸 収端近傍でのスペクトル形状は、価数が 3 価の参照物質である CeF₃のものと類似し、4価の参照物質であるCeO₂と似ていない。 このことから、これらの物質に含まれる Ce の価数は 3 価に近い ことがわかる。Fig.2 に Ce₂Pt₆Ga₁₅の Pt L₃端の XAFS スペクトル より求めた動径分布関数と希土類がハニカム構造を組んでいる 構造モデルを用いてフィッティングを行った結果を示す。 Ce₂Pt₆Ga₁₅のPt L₃端のXAFS スペクトルより求めた動径分布関数 とフィッティングの結果が良く一致していることから Ce2Pt₆Ga₁₅ は希土類がハニカム構造を組んでいるモデルを用いて説明する ことができる。今後、Ce₂Pt₆Ga₁₅の Ce L 端、Ga K 端、Ce₂Pt₉Al₁₆ の Ce L 端、Pt L 端おいても同様に解析を行い、結晶構造を明らか にしていく。

4. 参考文献

- 1. G. H. Kwei, et al., Acta. Cryst. **B52**, 580 (1996).
- 2. A. I. Tursina, et al., Intermetallics 17, 780 (2009).

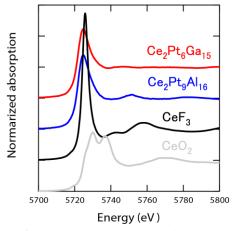


Fig.1 Ce₂Pt₆Ga₁₅, Ce₂Pt₉Al₁₆, CeF₃ と CeO₂の XAFS スペクトル

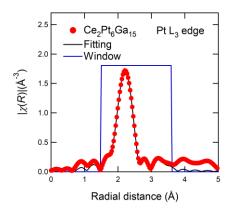


Fig.2 $Ce_2Pt_6Ga_{15}$ の Pt L_3 端の XAFS スペクトルより求めた動 径分布関数とフィッティングの 結果